

人口減少・超高齢社会における暮らしやすく持続可能なまちづくり

＝「鹿沼市立地適正化計画」を知っていますか＝

都市計画課都市計画係 ☎(63)2209

「鹿沼市都市計画マスタープラン」では、都市づくりの目標として、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を掲げています。

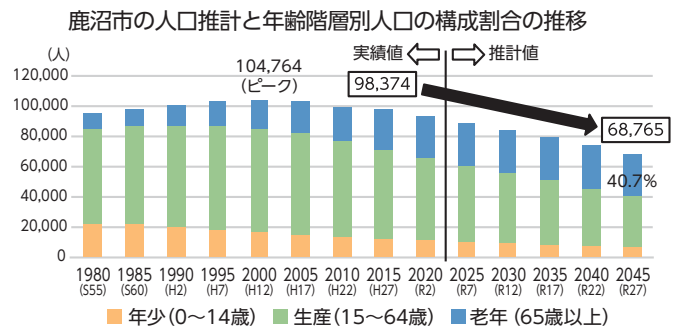
令和3年3月に、その具体的な計画となる「鹿沼市立地適正化計画」(右QRコード)を公表しました。公表から、約1年が経過しましたので、改めて計画内容を紹介します。



人口減少・超高齢化社会の到来－立地適正化計画の背景－

本市の人口は、2000(平成12)年をピークに減少し続けており、2045(令和27)年には、2015(平成27)年から約30%減少すると予想されています。また、65歳以上の老年人口が人口全体の4割を超えると予想されています。

市では、人口減少・超高齢化社会に対応した持続可能なまちづくりを推進するため「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を掲げ、「いつまでも暮らしやすいまち」を目指しています。



資料:令和2年国勢調査(総務省統計局)、日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」とは

商業・医療・福祉等の都市機能がまとまって立地し、住民が公共交通等により、それらに容易にアクセスできるまちづくりの考え方です。

コンパクトシティ

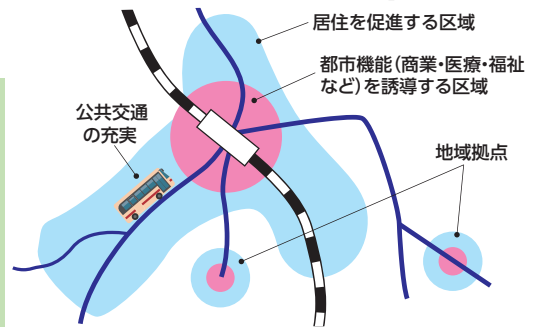
人や商店等が郊外に広がることを抑え、それらが一定のエリアに集まる拠点を形成し、人口が減少しても身の回りで用事を済ませることができる利便性の高いまち



ネットワーク

超高齢社会の進行を見据え、「地域拠点」間を結ぶ公共交通等

「コンパクト・シティ・ネットワーク」のイメージ



ベリーちゃんの疑問その1

Q どうして「コンパクトシティ」を目指すの?

A 利便性を向上し、「住み続けられるまち」を目指すためです。

人口減少が進み、まちの人口密度が低下すると、利用者の減少によるお店の撤退やバスの減便などが想定されます。

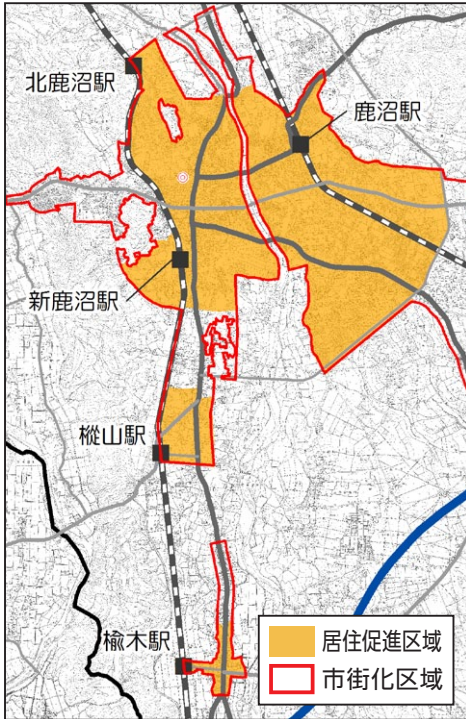
そして、まちが不便になると、さらに人が減るという「負のスパイラル」が起こってしまいます。



立地適正化計画では、2つの誘導区域を設定しています

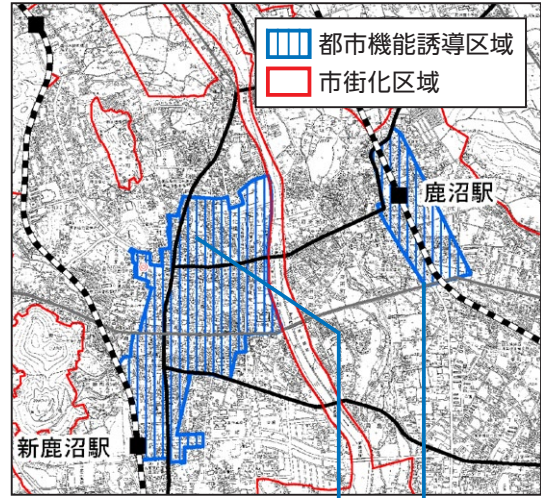
居住促進区域 (居住誘導区域)

人口密度を保ち、日常生活を支える身近な施設を維持するエリア



都市機能誘導区域

居住促進区域の中でも、まちの拠点として、多くの市民の利用が想定される施設を維持・誘導するエリア



中心部地区

維持・誘導施設

- ・病院
- ・図書館
- ・百貨店
- ・市民情報センター等市民利用施設
- ・市役所
- ・美術館、博物館

鹿沼駅周辺地区

誘導施設

- ・病院

ベリーちゃんの疑問その2

Q 郊外に住んでいる人は、まちなかに引っ越さないといけないの？

A 今住んでいる場所が「居住促進区域」外であっても、引っ越す必要はありません。

ただし、住まいを見直すなど、生活環境を変える際には、この計画で示したまちづくりの方針を意識し、居住地について検討してください。



TOPIC まちづくりに関する協定を締結

昨年12月21日に、鹿沼市はUR都市機構とまちづくりに関する連携協定を締結しました。

今後、持続可能なまちづくりを推進する上では、地域・民間事業者・行政等がより一層連携していく必要があります。

今回、まちづくりのノウハウを持ったUR都市機構と連携することで、公民連携の基盤が築けることを期待しています。

協定に定められた主な取組事項

- 中心市街地におけるまちづくりの検討に関すること
- 公民連携まちづくりの推進に関すること
- 交流人口・関係人口の創出に関すること
- 安全・安心なまちづくりに関すること



ふるさと大使

ECOの環

立地適正化計画

消防表彰

コミュニティ・ポイント

市民のひろば

健康・お知らせ

お知らせ

ごみ収集

シミュレーション